

## 2020年サクラだより11

2020. 3. 15 記

先月26日に気象庁の発表した向う3ヶ月間の近畿地方の気象予報では、2月に引き続き暖かい日が続き、特に3月は80%の確率で暖かいとの予報でした。この予報どおり、一昨日までは暖かい日が続いてきていました。観察中の桜の蕾も随分膨らんできています。附近では、ハクモクレン、シデコブシ、モクレン、コブシなどモクレン科の仲間が相次いで開花、シナマンサク、ベニバナマンサク、サンシュウ、などは花期が終了。変わってミモザ、ジンチョウゲ、ユキヤナギ、トサミズキ、ボケ、モモ、エニシダ、それにコバノミツバツツジが加わって散歩の足を楽しませてくれます。待たれるのはサクラですが・・・。皆さまの附近は如何でしょう。



写真はわが家の近くのサクラの今日の姿です。

### \*東京観測史上最速の開花

サクラの花の季節の訪づれは、日本の人々には待ち遠しい一事。毎年、開花一番がTVで放映されます。今年は全国で一番早く開花するのは、東京との予報があり、一昨日、昨日ともモーニングショウ中で標準木のある泰邦に中継が入れられていたが、一昨日は1輪、昨日は2輪で開花宣言はされなかった。夕方のニュースの中で、午後2時の観測で5輪以上の開花が認められたとの報道があった。気温1.9℃、雪交じりの雨の中での開花宣言となりました。

東京の3月14日のサクラ開花は、東京での観測史上最速であるとともに、今年の全国最速の記録でもある。従来の東京での開花最速記録は2013年に記録された3月16日であったが、この年は全国的にも開花が早く、宮崎、福岡が3月1

3日、大分が3月14日、さらに鹿児島、高知が3月15日と九州、四国の南の方が東京より早い開花となっていた。この年の1~3月の気温を見ると、各地とも1月~2月上旬の気温は平年よりやや低く、2月中、下旬は平年並み、3月に入ると中旬、下旬は平年を3.5~4℃も上回る気温となった為、九州・高知の開花が早やまったのであろう。なお、大阪での開花が3月20日と観測史上最速の記録となった2018年も12月~2月中旬までの気温は平年を下回る寒い冬、2月下旬から一転、平年をかなり上回る気温となった年である。この年も、九州、高知などの開花日は3月15日~3月17日と早かった。

しかし、今年の東京の最速の開花のパターンは従来の概念には当てはまらない。異常な暖冬、3月以降も暖かい日が続く気象だった。

「たより10」で近畿の開花予報を記載したが、東京について早い地域は、横浜が3月16日、埼玉が17日、山梨が17日と関東圏が早いとしている。一方、九州、四国地区では、高知・福岡が3月20日、大分、長崎、が3月23日、宮崎、3月26日、鹿児島3月30日と予想。

昔から言われてきた、サクラは南から北への「サクラ前線」は完全に消滅です。

「暖冬であり、休眠打破は遅れたが、その後の気温が高く、遅れを上回り、早い開花となった。」というコメントが出されている。であれば良いが気象キャスターの中には、開花はしても満開には至らない地域がでるのではないかとコメントする人も出てきている。



今朝のTVの近畿の開花予想の解説です。今年の冬季(1月21日~2月10日)の平均気温(分かりにくい青字)京都6.7℃、大阪7.7℃、神戸7.8℃現在の蕾の状況から、京都、大阪、

神戸の順の開花となる。画面の中の冬季の気温が低いほど、休眠打破が早く進み、開花が早くなるという解説でした。今年のサクラの開花は冬季の休眠打破の時期が影響と解説されていました。

なお担当の南気象予報士は、神戸・王子公園の標準木の蕾が先週からほとんど動いておらず開花予報は来週まで持ち越しとのコメントでした。

家近くの公園のサクラの枝は前掲の写真の通りで、ピンクの蕾の先が覗いてきています。先に予想した18日に開花が見られるのでしょうか、3～4日寒い日が続きそうで1～2日遅れるかも。

### \*今年の「休眠打破」はいつ頃おこった？

正確には、「休眠打破」はいつ頃から始まりいつ頃には終わったのでしょうか？

次の写真は、2月1日に採取したサクラの枝の促成試験？（平均温度21℃程度）の1ヶ月経過した3月1日の写真です。



冬芽は全く、変化を見せませんでした。冬芽が休眠打破されていれば、積算温度が400℃程度になる2月の20日前後には開花に至らなくとも冬芽が膨らむ程度の変化があっても良さそうなものですが、630℃となっても変化は現れませんでした。

次の写真は同じ場所から、2月5日に採取してきた枝の、30日経過後の写真です。



この写真の下に、2本の短枝があり、芽の数は全体で、花芽16個と葉芽4個でした。30日間経過した、3月6日なでは花芽1個からは花が咲き、2個に少しの膨らみが見られ、葉芽2個が膨れて展葉が始まりました。なお、2月11日採取の短枝、花芽10、葉芽2個のものでは3月5日時点で花芽1個が開花、2個膨れ、葉芽動かずという状況でした。

この事実からは、今年は少なくとも1月末までには休眠打破は起こっておらず、2月5日ごろからということになりそうです。

では、何時終わっているのか？ですが現時点で判断できません。3月11日採取の枝では、花芽16個中、15個までは膨れて来て開花直前のももありますますが、1個は全く動いていません。この芽が遅ればせながら動けば下記のような方法で推定はつくのですが、・・・。

もう一つの休眠打破を推定する方法があります。「サクラだより8」では2月26日から促成試験を始めた枝で3月7日に開花したことから、積算温度、400℃、のルールを使って開花日を推測する方法を披露いたしました。試験開始から、21℃X10日間、210℃の積算温度を加えれば開花するという推理でした。

400℃ルールに準じれば、2月26日採取の枝には休眠打破後に400-210=190℃の積算温度が加わっていたこととなります。

2月の神戸気象台の旬の日平均気温の記録は、上旬6.0℃、中旬9.6℃、下旬9.1℃ですからこの値をつかって、逆に休眠打破の期日を推定します。

21～26日まで 9.1x6=54℃、  
11～20日まで、9.6x10=96℃

ここまでは40℃不足です。上旬の日平均気温は6.0℃の大略7日分に相当します。この結果からは、休眠打破の始まりは2月の3～4日であったと推測できるわけです。

偶然かも知れませんが、2月初旬に採取した枝の促成試験結果ともよく符合しました。

本日はここまで、開花を待ちましょう。